

令和7年度 郡市医師会生涯教育担当理事協議会

と き 令和8年3月5日(木) 15:30～16:15

ところ 山口県医師会6階 会議室(ハイブリッド開催)

[報告: 常任理事 茶川 治樹]

開会挨拶

沖中副会長 本日は年度末のお忙しいところ、ご参加いただき、感謝申し上げます。併せて、本日お集まりの皆様方が、医師の自己学習・自己研修のための日本医師会生涯教育制度に則り、各地域で研修会等を開催していただいていることに感謝申し上げます。

本会では、生涯教育の一つとして、生涯研修セミナーを年4回開催している。最近では参加者の利便性向上を目的に、現地とWebのハイブリッド形式で開催しており、毎回100名を超える方に参加いただいている。生涯研修セミナーの周知等にご協力いただき、感謝申し上げます。本会では生涯研修セミナー等を通じて、引き続き会員の生涯教育の充実に尽力していきたい。本日は生涯研修セミナー以外にも、生涯教育に関する事業について説明を行う。よろしくようお願い申し上げます。

協議事項

1 日本医師会生涯教育制度について

日医の集計では、2024年の日医生涯教育単位取得者は全国で110,788人。前年度比2,082人の減となっている。平均単位数は9.5単位、平均カリキュラムコードは6.3、合計15.8となっている。

日医会員数のうち、単位取得者は49.7%であり、これは、全国の医師の中で1単位以上を取られている方の割合である。逆に言えば、日医会員の半分の方が一度も単位を取っていないことになる。A①会員は63%と高いが、B会員、C会員となると割合が低くなり、特にC会員はほぼ受けられていない。

山口県の日医会員単位取得者率は53.2%である。全国平均の49.7%より高いが、46.8%の方は1単位も取得されていないことになる。特にC会員は全国では18%だが、山口県では11%しか

単位を取っていない。勤務医の方に受けていただけるような制度設計も必要と感じた。

単位の平均とカリキュラムコードの平均を合わせた数字をみると、全国の16.1に対し、山口県は15.5と、やや少ない数字になっている。一方、2023年の数字と比べると、山口県では1人当たりの単位数は増えている。

2026年度日本医師会生涯教育制度の実施に関する留意事項として、日医ホームページ上で単位とカリキュラムコードが取得できるe-ラーニングについて、4月以降はMAMISにログインした後、受講が可能になる(本件については各郡市医師会に通知済)。

2 令和8年度山口県医師会生涯教育事業計画について

(1) 生涯研修セミナー

令和8年度も年4回、生涯研修セミナーを開催する。沖中副会長の冒頭の挨拶にもあったように、最近では現地とWebのハイブリッド形式で開催している。この生涯研修セミナーでは、専門医を更新するための共通講習の単位が受講できるテーマを年に1つか2つ入れるようにしており、令和8年度は11月15日のセミナーで「医療安全」の単位が取得できるよう準備をしている。

(2) 山口県医学会総会

山口県医学会総会について、令和8年度の引受である山陽小野田医師会より下記のとおり説明いただいた。

令和8年6月14日(日)に不二輸送機ホールで第108回山口県医学会総会を開催する。午前中は大阪大学大学院医学系研究科感染制御学の忽那賢志教授に「『感染症』の日本史」と題した講演の後、山口大学救急医学講座の鶴田良介教授に「『救急』の日本史」と題した講演をしていただく。

その後、山口県医師会医学研究助成事業の研究発表が行われる。

午後からは市民公開講座として、木山裕策さんに講演をしていただく。木山さん自身が甲状腺がんを患い、克服されている。「がんが教えてくれたこと」という講演と、ミニコンサートをしていただくことになっている。多くの方にご参加いただきたい。

なお、令和9年度は萩市医師会、令和10年度は光市医師会の引き受けで開催を予定している。

(3) 中高生を対象とした医師の職業体験事業

白澤理事より、下記のとおり説明が行われた。

昨年度、中高生を対象とした医師の職業体験を8月3日(日)に開催した。参加者は中学生と高校生で、想定以上の人数が集まり、一部抽選を行い、56名が参加された。採血、心肺蘇生、血圧測定、縫合・結紮、気道異物の除去、医学科の6年生に協力してもらって「医学生に聞いてみよう」という6ブースを設置した。令和8年度も8月に山口県医師会6階で医学部の学生さんの協力も得て行う予定である。

(4) 体験学習

体験学習は昭和60年から山口大学医師会、山口大学医学部にお願いし、山口大学の2教室にお引き受けいただき、開催している。引受教室の専門的な講義や、普段、大学で使用されている医療機器を用いた実技研修が体験できるが、令和7年度は開催しなかった。

(5) 山口県医学会誌

山口県医学会誌は令和7年度分が第60号となる。今年度までは冊子にして配布を行うが、令和8年度から基本的にホームページに掲載し、各自でご覧いただく形にしたいと考えている。

(6) 山口県医師会医学研究助成事業

本事業は令和5年度から始まった新しい事業で、会員の医学・医療に関する研究を支援することにより、医学・医療の発展と医師の県内定着促進を目指す目的で行っている。1件につき100万円、年間3件まで募集している。令和7年度は1件の申請があり、令和8年度分は申請がなかった。

3 その他

郡市医師会での研修会の開催状況等に関する取り組みや課題をお聞きしたところ、下記の意見があった。

- ・製薬会社の協力が得られなくなり、開催回数が減っている。
- ・ハイブリッド開催が多くなり、現地参加者が減っている。また、高齢化等により全体的に参加者が減少しているため、歯科医師や看護師などにも参加を呼び掛けている。
- ・他地区の研修会の参加案内が届くとよい。
- ・(主催メーカーの影響で)糖尿病や認知症等に関するカリキュラムコードに偏りが生じている郡市医師会がある一方、内科に偏らずに、皮膚科、眼科、精神科、整形外科など、なるべく幅広く題材を選ぶようにしている郡市医師会もあった。

出席者

郡市担当理事

大島郡 松本 直晃*
 熊毛郡 本田 圭子*
 吉南 目 昭仁
 下関市 大谷 望
 宇部市 鈴木 克佳*
 萩市 宮内 嘉明*
 徳山 河野 正輝(代理)
 防府 上田 亨*

下松 野見山敬太*
 岩国市 横峰 和典*
 山陽小野田 関 耕三郎
 光市 谷川 幸治
 柳井 濱田 敬史*
 長門市 須田 博喜
 美祢市 清水 良一

県医師会

副会長 沖中 芳彦
 常任理事 茶川 治樹
 理事 白澤 文吾
 理事 國近 尚美
 理事 森 健治
 理事 中村 丘

注：*は Web 参加者